

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年9月30日
- 事業名 : 「食とエネルギーの自給100%」を体験できるエコモーションの運営と木質資源の新しい価値の創出
- 資金分配団体 : 地球と未来の環境基金
- 実行団体 : 株式会社 百

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
青根温泉地区内または周辺地区における森林整備	整備を手掛けた森林の面積	10ha	2024年3月	自社所有山林は整備中	2
持続的な自伐型林業を経営するための知識や技術の取得	形成する林道の長さ	300m/ha	2024年3月	天然林約6.4haを借りて、作業道を開設中（約250m）	3
町民や自伐型林業に興味がある方々と百のつながりが生まれる	エコモーション（百の山） 来訪者数（宿泊者数）	700人/年	2024年3月	2022年4月下旬オープン 来訪者：157人 （2022年5月～9月30日時点で178名：目標の25%程度）	3
木材を活用した商品を開発する	製品開発数	5種類	2024年3月	販売している商品 1種類：薪のみ	3

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
特になし

③ 広報（※任意）

- 1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）
- 2.広報制作物等  
「百のやど」ショップカード、リーフレット作成中
- 3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部		宮川卓士	株式会社百 取締役
内部		宮川卓士	株式会社百 取締役
内部		宮川卓士	株式会社百 取締役
内部			

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
町民、または町外の自伐型林業等に関心のある方	①森林整備に新たに参加してくれた人数 ②継続して参加してくれる人の人数	① 30人 ② 6人	2023年9月	活動への参加者は少しずつ増えてきているものの、継続的に参加してくれる方がまだ少ない。自伐型林業の自立を目指す志向のある方をしっかりと集め、新たなチームを作るなど、作業も安定して実施できる体制づくりが必要。
自伐型林業を実践したい方	自伐型林業をはじめ、持続的な林業について議論を行い、新規事業に着手する事業者の数	1事業者	2022年3月	2022年5月から開催したフォーラムや自伐研修をきっかけに、自伐に取り組むために「山林の購入に動いている」方が1名いる。そのほかにも、山林確保にはまだ着手できていないものの、自伐に取り組みたいため、活動に参加したいという町民、仙台市民が3名ほどいる状況である。
川崎町民 川崎町外の方	森林の活用や、“やさしいエコ”に取り組みたい人が増える（百のやど来訪者）	1,000人	2024年3月	「百のやど」宿泊者は8月末時点で157名となった。目標達成に向けてのペースとしてはまだまだ遅い。一方で、少しずつ「自伐型林業に関心がある」ということで宿泊される来訪者も出てきており、自伐型林業を紹介できる宿泊プランを推

				<p>し出していくことが重要となりそうである。</p> <p>月1回の地元の方向けの飲食営業も開始。「百のやど」のある青根温泉地区、自伐型林業施業地である腹帯地区の方を中心に来訪いただいている。腹帯地区の方々からは、山林を貸してもよいという声も2名ほどいる。</p>
木材利用者	木材関連商品に興味を持ち、町内の木材から生産された薪や炭などの販売先が増え、木材需要が高まっている。	20件	2024年3月	<p>現在、販売しているのは薪のみ。他の団体と連携しながら炭の製造委託なども検討しながら、エネルギー利用としての商品の展開を目指す。</p>



③ アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察
ヒアリング ① 自伐型林業実践に対する意向 ② 山林利用に対する意向	① 自伐型林業実践に対する意向 実践している 0 山林調達中 1 関心がある(活動があれば参加したい) 5 ② 山林利用に対する意向 山林を貸してもよい 2 所有者とつなぐことはできる 2 ----- 参考 自伐型林業フォーラム参加者 町民 12名 町外 44名 林業講習参加者 町民 5名 町外 20名	○フォーラムや研修を通して、既に自伐型林業に関心のある方は、情報をキャッチして遠方からでもフォーラムや講習に参加するようである。 ○今回のフォーラムと講習については、町民への理解は、既に関心のあるごく一部の層に限られた。山林所有者へのさらなる発信、理解が必要である。 ○自伐型林業を実践したいという方は数名おり、林業従事者、森林活動実施者、初心者など層は多様である。



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>フォーラムや講習に参加する方は一定数確保できていることから、興味関心のある方が隣接地域に多いことは確認できた。ただし、町民の参加がまだまだ足りない。特に山林所有者（高齢者）への森林の利活用意向は把握できていない。今後、施業地を確保していくためにも、森林組合や愛林組合などへのコンタクトを積極的に行っていく必要がある。</p> <p>また、半林と連携した半Xについては、まだまだ発信不足が懸念される。半Xの発信の仕方も、明確さがないため、「半林のモデル案内」などができるように施業を進めながら、自伐型林業のモデルを見学していただけるように環境整備を進めることができれば、半Xの集客にもつなげることができると考える。</p> <p>今後、アウトカム指標の見直しも検討する。</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	<p>【半林】</p> <p>自伐型林業フォーラム参加者</p> <p>林業講習参加者</p> <p>山林所有者へのコンタクト数</p> <p>施業地案内者数</p> <p>連携可能性のある地域 (講師派遣、先進地見学など)</p> <p>【半X】</p> <p>来訪者数</p>	<p>町民 12名</p> <p>町外 44名</p> <p>町民 5名</p> <p>町外 20名</p> <p>8名 (個人、森林組合、愛林組合)</p> <p>15名 うち貸してもよいという意向がある(2名)</p> <p>・宮城県気仙沼市(先進地視察、技術研修)</p> <p>・宮城県南三陸町(先進地、講師派遣)</p> <p>・宮城県丸森町(活動連携)</p> <p>・宮城県七ヶ宿町(木材販売先)</p> <p>・山形県飯豊町(活動連携)</p> <p>・宮城県大河原地方振興事務所(情報共有)</p> <p>来訪者:157人 (2022年5月～9月30日時点で178名)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自伐型林業に既に関心のある町外からの研修参加者などが多い。</li> <li>・山林所有者は高齢者が多いことから、さらに地域に入り込み、ヒアリングを進めて、森林の活用意向を把握していくことが求められる。施業地周辺に暮らす住民とは、今後の活用について少しずつ話を進めることができしており、林地の集約の可能性もある。</li> <li>・まだまだ放置された山林を今後利用していくかという問題意識が地区住民、町民の中で生まれてない。</li> <li>・施業技術の習得の中で、作業の流れ、注意するポイントを整理し、施業するメンバーの中で共有する必要がある。さらに、その情報を常に共有できるチームを作り、技術研修や勉強会などを実施していく。</li> <li>・宮城県仙南地域では、少しずつ自伐型林業の動きが出てきており、振興事務所と頻りに情報交換を行いながら、継続できる自伐の形を模索中である。</li> <li>・キャッシュポイントをつくるという点においては、間伐材のバイオマス利用、市場出荷の2つについて話を進めている。</li> </ul>
実施をとおした活動の改善、知見の共有	<p>計画どおりのアウトプット発生に影響を与えた阻害・貢献要因は何か。</p> <p>事業の進捗によって必要な実施事業の見直しが行われているか。</p>	<p>貢献要因</p> <p>○講師の自伐型林業界における知名度があることから、それを求めて講習やフォーラムに参加していただいた方が多かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師を求めて参加されている方が多いことから、一定数自伐型林業に対して興味がある方が多いということがうかがえる。その層に対して、どのようなアプローチで、自伐型林業を生業とするか、また山林を提供していた</li> </ul>

		<p>○真摯に相談に乗っていただける町民の方々がいた。</p> <p>障害要因</p> <p>○今年は天候不良によりなかなか現場に入れない日が多かった。</p> <p>○研修に参加して下さった方々による現場作業の日程をうまく組むことができなかった。</p>	<p>だけるかを考える必要がある。</p> <p>○今後はさらに作業道に開設を進め、施業地の案内や、自伐型林業を自分たちがしっかりと説明できるプレゼン方法などを勉強していくことも必要である。</p>
組織基盤強化・ 環境整備	<p>継続して、自伐型林業研修や実際の現場での活動参加に参加したいと考えている方</p>	4人	<p>自伐型林業で“自立したい”と考える方の人数である。ここでいう“自立”とは、「①自らの生業として取り組む」または、「②株式会社百の活動の中で取り組みたい」という意向を示している方々である。</p> <p>作業道開設や伐倒技術について、同じレベルで共有するために、このような方々が継続的に活動に参加できる仕組みを作ることが必要である。</p>

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

○作業道が少しずつ形となっていることで、関心を持ってくださる方が増えている。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

○想像以上に、川崎町民の森林所有者の意向が見えにくく、どのようなアプローチを進めるべきかが、不透明な部分がある。





④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>フォーラムや研修を通じて、自伐型林業に関心のある人が多いことは確認できたが、実践できる場を持つ人は少ないという状況があると考えられる。アウトカムとして「①技術をみにつけること」、「②施業地を確保すること」を目標としながら、それに向けた勉強・講習会の実施、山林所有者への自伐型林業の説明・アプローチを地道に行っていく必要がある。株式会社百は任意団体設立時から4年が経過しており、少しずつ地域の方々には認知されているため、しっかりと自伐型林業としての作業基盤を固めながら、周知を進めたい。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

- 自伐型林業を説明する（プレゼンする）方法
  - 「百のやど」で紹介する機会も増えてきている。また町民へ、自伐型林業の意義を伝えられる力を付けたい。
- 森林所有者への細かなアプローチ（自伐型林業の説明、施業地への案内など）
  - 今後、施業できる山林を確保するスキームを考え、たくさんの人が取り組みやすい環境づくりを目指したい。
- 自伐型林業チーム（制度）の立上げ
  - 活動組織を明確にし、施業や技術研修への参加頻度を高め、同じビジョンを持って自伐型林業を推進したい。

○先進地見学

→ 研修参加者などで、目標とする山林のイメージを持つことで、ビジョンを共有する。

○当初設定したアウトプットや短期アウトカムでは評価指標として不十分な点があることが今回の評価を通して見えてきた。12月までを目処に見直しを予定している。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



